

**カストロは言う。「核戦争が起これば、全人類の命が“巻き添え”になる。
いまそれは急速に現実化する可能性がある」**

By Fidel Castro Ruz and Prof Michel Chossudovsky

チョスドフスキーという人は Global Research の編集主幹で、この会見でインタビュアーを勤めている。積極的に意見を述べており、インタビューというより対談となっている。

.....

最初に（チョスドフスキーによる背景説明）

ウクライナの最近の情勢を踏まえ、2010年に掲載したこの記事を再掲載する。今日、軍事的エスカレーションは大変なことになっている。それは第三次世界大戦のシナリオにつながりかねない。和平プロセスをただちに開始し、両国が和平協定を結ぶことが何よりも重要である。

この年、アメリカはイランに対して軍事作戦を企てた。おそらく多くの方は真相を知らないはずだ。その詳細は、今なお世間から隠蔽されている。

これを憂えたカストロは、各国政府に向けてメッセージを発した。そして「核戦争では、巻き添えで全人類の命が奪われることになる。私たちは勇気を持って、次のように宣言しよう。核兵器も通常兵器も、戦争に使われるものはすべて、この世から消滅させなければならない」と訴えた。

このメッセージの内容をより深く知るために、私はハバナでカストロと長時間の議論を交わした。会談は広範で実りあるものとなった。私たちの共通認識はこうだった。

「世界は危険な岐路に立たされている。私たちは歴史の中で重要な転換点を迎えている」

カストロの各国政府宛書簡 2010年10月15日

新たな戦争で核兵器が使用されれば、それは人類の終焉を意味します。このことは、アインシュタイン博士が以前から予見していたことです。アインシュタインは、核分裂が数百万度の熱を発生させることを知っていました。そして広範な円形地域内のすべてのものを蒸発させるほどの破壊能力を持つことを予測しました。

今日、核兵器の使用による戦争の危険が差し迫っています。米国とイスラエルによるイランへの攻撃準備は、放置すれば、必然的に核紛争へと発展するでしょう。私はいささかの疑いも抱いていません。

世界の人々は、政治指導者に「生きる権利」を要求しなければなりません。人類の命がこのような危険にさらされるとき、誰も無関心でいるわけにはいきません。

アルベルト・アインシュタインはこう断言しています。「第三次世界大戦がどんな武器で戦われるかは知らないが、第四次世界大戦は棒と石で戦われるであろう」

しかし、世界的な核戦争になれば、その棒や石を使える人は地球上からいなくなるでしょう。なぜなら、アメリカの政治家や軍人は、罪のない人々を殺すことを正当化するために、いつもこう断言します。戦争ではやむを得ず「巻き添え被害」が発生する。それは罪のない人々に死をもたらすことを正当化する言葉のトリックです。そして皆さん、核戦争で「巻き添え」となるのは全人類の命ではないでしょうか。

だから、「核兵器も通常兵器も、戦争に使われるものはすべて消滅させなければならぬ！」のです。

皆さん、そう宣言する勇気を持つていませんか！

フィデル・カストロ・ルス

対談は進み、両者の意見は以下の点で一致した。

イラン・イスラム共和国に対して軍事作戦が開始された場合、米国とその同盟国は通常戦争に勝つことはできないだろう。 それでも勝ちにこだわれば、それは核戦争に発展する可能性がある。

「それでも勝ちにこだわる」のは、米政権が今もなお「イランに**戦術核**を使えば、世界はより安全になる」という命題だ。この不条理な命題と自家撞着にどう立ち向かうのか。この問いに応えるため、フィデル・カストロが提示した中心的な概念は、「思想の戦い」である。

* 思想の闘い“Battle of Ideas”とはなにか

遠大な「思想の戦い」だけが世界史の流れを変えることができる。その目的は、地球上の生命を破壊しかねない核戦争という事態を防ぐ想像力である。企業メディア（ロイターやCNN）は思想を覆い隠す隠蔽行為に深く関わっている。彼らの情報操作は、核戦争がもたらす壊滅的な影響を矮小化するか、あるいは言及しないかのどちらかである。

人々は現状がほんとうに深刻なのだということを理解するべきだ。そして戦争への流れを変えるために、社会のあらゆる場面で力強く行動しなければならない。

* 「思想の戦い」は、革命闘争の過程の一部である

カストロのもとめた“決意”は、世界の世論に事実を知らせ、そのことによって「不可能を可能にする」ことだ。そして未来に対する究極の脅威である軍事的冒険（the military adventurism）を阻止することだ。

メディアの流す偽情報の洪水によって、限定的な核戦争があたかも「平和の道具」であるかのようにみなされている。世界の機関や国連さえもふくむ最高権威によって容認されるようになっている。そうなったら、もう後戻りはできない。人類は自滅への道をまっしぐらに突き進むことになるのだ。

*** 「思想の戦い」は世界の人々の運動として展開されなければならない**

人々は、戦争を挑発する軍事的意図と政治的宣伝に反対して結集しなければならない。政府や選挙で選ばれた代表者に圧力をかけ、町や村、自治体の地域レベルで反戦運動を組織し、メッセージを広げ、熱戦争のもたらす真の意味について仲間に知らせるなら、この戦争は防ぐことができる。

必要なのは、「戦争は正当だ」と主張するさまざまな論調に挑戦する草の根の運動であり、「戦争は犯罪だ！」と宣言する世界的な人々の運動なのである。

「思想の戦い」とは、戦争犯罪人の政権首脳と対決することだ。世界的な戦争に賛成を強要する米国主導のコンセンサスを突き破ることだ。数億人の人々の考え方を変えることだ。そして核兵器を廃絶することだ。つまり、「思想の戦い」は、真実を取り戻し、世界平和の基盤を打ち立てることだ。

紹介文の最後に、この対談におけるフィデル・カストロの発言のエッセンス (Havana, October 15, 2010) を掲げる。

* 米国以外のすべての国は通常戦争では米国には勝てません。同時に核戦争は通常戦争の代替手段とはなり得ません。米国以外のいかなる国が核戦争をはじめても、米国はそれを甘んじて認容する気はまったくありません。それは必然的に米国の介入を招き、世界的な核戦争になるでしょう。

* 地球上の誰も、人類という種が消滅することを望んでいないと思います。だから、消えるべきは核兵器だけでなく、通常兵器をふくめたすべての武器であるというのが私の考えです。

* 平和の保証は、すべての民族に分け隔てなく与えられなくてはなりません。

* 核戦争で巻き添えになるのは、人類のすべての命です。

* 核兵器も通常兵器も、戦争に使われるものはすべて消え去らなければなりません。そのように宣言する勇気を持ちましょう！

* 世界が“核による破滅”（nuclear catastrophe）に導かれないように要求すること、いまそれは、生命を守ることと同じです。